



まほろん通信

VOL.21

(平成18年7月1日発行)
(財)福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700 (代)
FAX 0248-21-1075
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



実技講座「火打ち金づくり」

今回行われた実技講座は、時代劇でおなじみ「火打ち金」づくりです。参加者の中には、初めてカッターを使い材料を切る子供たちもいましたが、参加者の皆さん全員が夢中になって、みんなで楽しく火打ち金をつくることができました。また、職員が作った火打ち金を、火打ち石に打ちつけて火花を飛ばすと、子供たちから「本当に火花がでた」と歓声があがりました。では、ここで今回火打ち金づくりに参加した子供たちの感想をいくつか紹介します。

「はじめてで、とても難しかったです。細かい作業が多く、ボロボロになってしまいましたが、いい火打ち金づくりができました。」「はじめは、上手に作れないかと思ったけど、作ってみたら上手に作れました。カッターで切るのは初めてだったけど、頑張っけて切れて、模様も上手にできました。作ってみてとても楽しかったです。」など参加者の皆さんには、好評の火打ち金づくりでしたが、反省点もあります。1つは、柄になるバルサ材が厚くカッターで切るのに苦労したこと、2つめは、柄の部分のバルサ材と刃の接着に時間がかかり、製作時間が伸びてしまったことです。今後は、この2点を改善し、さらに楽しい「火打ち金づくり」を目指しますのでご期待下さい。



体験学習

実技講座「釣り針づくり」

4月29日(土)に今年も鹿の角を使った釣り針づくりの講座を実施しました。鹿角製の釣り針は、縄文時代に使われており、福島県ではいわき地方の貝塚からたくさんみつかっています。

鹿角はそのまま、当時の道具を使って作るとすると1日以上かかりそうですので、あらかじめ半分に分けて、グラインダーでだいたいの形を整えたものを小さいものから大き目のものまで複数作り、その中から好きなものを参加者に選んでもらいました。

水につけて、棒やすりや砥石、紙やすりで磨くと徐々に形になっていきますが、結構力がいらしますので、10時頃からはじめて、昼休みをはさんで完成したのは2時過ぎになってしまいました。

みなさん、それでも釣り針の形が出来上がり、当時の製作の苦勞をしのぶことができたことと思います。



<やすりと砥石で鹿角を削る>

おかげさまで5周年！まほろん感謝祭

7月15日(土)をもちまして、おかげさまでまほろんも5周年を迎えます。皆様に感謝の念を込めて、下記の日程で感謝祭を実施いたします。是非、ご来場ください。

7月15日(土)「特別体験活動プログラム」

- 1) 弓矢体験 午前の部 10:00～12:00
(体験広場) 午後の部 13:00～15:00
- 2) 縄文クッキーをつくってみよう！
(縄文時代の家) 午前の部 11:00～12:00
午後の部 13:30～14:30

7月16日(日)文化財研修「しらかわのおどり」

特別公開

- (まほろん広場) 12:20～15:10
踊り・白河根田安珍歌念仏踊
・白河天道念仏さんじもさ踊
・塙祭ばやし

7月17日(月)ボランティアイベント「まほろん5周年だよ！ボランティア2006」

実技講座「土笛・土鈴づくり」

去る5月6日(土)に、まほろん実技講座「土笛・土鈴づくり」を行いました。

最初に、500gの粘土の固まりを2つに分け、それぞれを丸いボールにしました。その後、2つのボールをお椀のようにしていきます。お椀ができたら、お椀同士をくっつけて、笛の場合は、吹き口用の穴を開け、鈴の場合は、新聞紙にくるんだ玉の中に入れます。

参加したみなさんは、フーフーと息を吹きかけ、音が鳴るように口の調整をしたり、表面に文様を付けたたりして、2時間ほどで完成しました。その後、野焼きで焼成し、立派な土笛・土鈴ができました。



<土笛・土鈴づくりのようす>



<弓矢体験のようす>

9:30～15:00 まほろんボランティアのみなさんが楽しいイベントを企画しています。内容は「昔ばなしを聞こう」、「昔のおもちゃであそぼう」、「縄文タトゥー」などを予定しています。

※イベント期間中の3日間、毎日60名様に無料で「勾玉づくりセット」をプレゼントします。抽選時間は、10:30、13:00、14:30の3回です。

県立博物館移動展案内

「馬と人の年代記～大陸からふくしまへ～」

開催期間：平成18年8月5日(土)～9月18日(月)

この春に福島県立博物館で開催され、大好評をいただいた企画展が、まほろんにやってきます。

馬は、最近まで人々にとって身近な動物でした。馬と人が共に暮らす姿は、近年まではごくありふれたものだったのです。特に福島県には、相馬野馬追をはじめとした伝統的馬文化が色濃く残っていますが、日本における馬利用の開始の時期やその目的、具体的な様相などは、あまりよく知られていないのではないのでしょうか。

そこで、今回の展示では、古墳時代における馬文化の源流を探ります。次に日本、特にふくしまの古墳から出土した馬具類を展示し、郷土において活躍した馬の姿をみていきます。また、これまであまり表にでなかった郷土の優品も多く揃え、郷土の馬文

化に対する理解を深めていただこうと考えています。

黄金色に輝く古墳時代の馬飾り、ユーモラスな表情のハニワ馬、そして郷土に根付く勇壮な野馬追。大陸から日本、そして福島へ、疾駆する馬の年代記(クロニクル)をお楽しみください。



<まほろんの古墳時代の復元馬>

シリーズ復元展示

中田横穴出土馬具の復元1

まほろんでは、平成17年度から「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をメインテーマとして、古墳時代の馬具の研究復元を行っています。対象としている資料は、いわき市中田装飾横穴出土の6世紀末の馬具資料です。

実は、まほろんでは開館時に東村^{ざるうち}策内37号横穴墓(7世紀初頭)から出土した馬具を復元し、原寸大の馬に装着して展示しています。

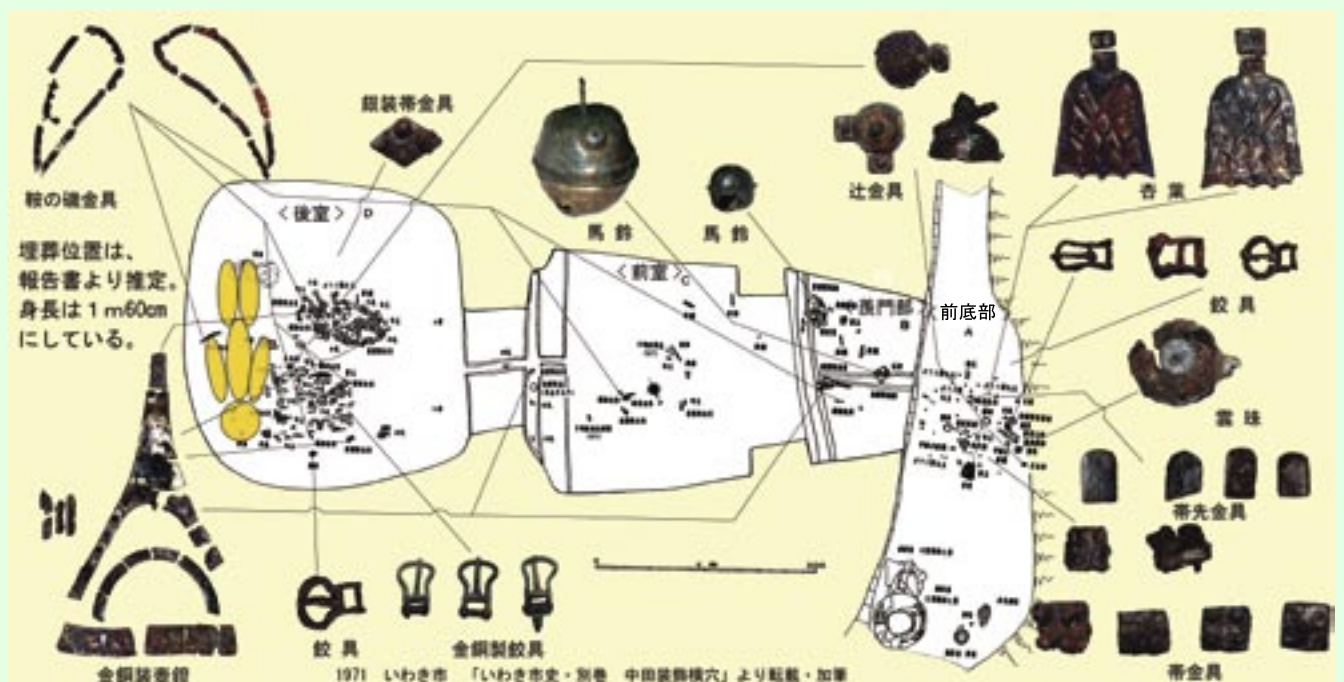
今回の中田横穴出土馬具の復元は、この策内横穴墓の馬具の製作技術との比較検討を行うことにより、当時の金属加工技術を再認識し、さらに古代の福島県の社会背景を推定するために企画されたものです。

復元作業は、最初に、馬具資料の肉眼観察と、出土した馬具が1頭分であるのか、複数頭分であるのかを検討しました。下に図を示しましたが、中田横穴出土の資料は、^{こうしつ}後室・^{ぜんしつ}前室・^{せんもんぶ}羨門部・^{ぜんていぶ}前底部の4つの場所から、バラバラにされた状態で確認されました(普通は、まとまって見つかります)。

たとえば、鞍の^{いそかなぐ}磯金具や、足をかける^{つぼあぶみ}壺鐙の金具は、後室と前室と羨門部から、馬の背中にぶら下げた^{つじがなぐ}辻金具や^{ぎょうよう}杏葉は前底部や後室から見つかっています。

このような状況でしたので、馬の頭(面繫)や胸(胸繫)、あるいは背中(尻繫)を飾っていた金具はどれなのか、さらに、当時、どの金具とどの金具が組み合っていたのかが、最大の検討課題となりました。

推定した組み合わせについては、次回お話しします。



研修のご案内

7～9月文化財研修のご案内

卯の花が咲き、体験広場のミズキの梢で郭公が鳴く季節となりました。夏季に行われる文化財研修をご紹介しますので、ふるってご応募下さい。

7月8日は、体験学習支援研修3「石包丁づくり」を西会津町立西会津中学校で行います。弥生時代の穂摘具である石包丁づくりを学び、社会科や総合学習の授業に生かしてみませんか。

7月16日は、無形の文化財研修I「しらかわのおどり」を行います。白河市や塙町に伝わっている念仏踊り等の実演と、福島県文化財審議会委員の懸田弘訓先生による解説を予定しております。

8月2日～4日は、教職員発掘調査体験研修を浪江町で行います。今回は(財)福島県文化振興事業団遺跡調査部が実施する常磐自動車道遺跡発掘調査の現場において発掘調査体験した後、周辺の史跡巡りをおこないます。

8月18日～20日は、遺跡調査技術研修を楡葉町で



<入門考古学講座Iのようす>

行います。国立歴史民俗博物館が実施する発掘調査現場で、縄文時代の竪穴住居跡の調査方法を学びます。

9月1日は、磐梯町慧日寺資料館において、史跡整備研修を行います。整備が進められている史跡の事例報告や慧日寺の現地見学を行います。

9月30日は、専門考古学講座Iで、工藝文化研究所の鈴木勉先生を講師に、古墳時代の馬具や平安時代の**梵鐘**等の研究復元について講演していただきます。

シリーズ収蔵品紹介1

こうぼうやま

弘法山古墳群のアクセサリー

今回から一般収蔵庫及び特別収蔵庫に収蔵されている資料に光を当て、このコーナーで紹介していくことにします。今回は第1回にふさわしく、煌(きら)びやかな資料。煌びやかなら光を当てなくても良いのではと言われそうですが、矢吹町弘法山古墳群から発見された古墳時代のアクセサリーを紹介します。

弘法山古墳群は今から約1,400年前(7世紀)の遺跡で、平成10年の発掘調査では、崖面に掘られた8つの横穴墓からそこに埋葬された人が生前に持っていた大刀や身に付けていたアクセサリー等が多く発見されました。これらの資料は、平成14年に当館の2つの展示、収蔵資料展「新編陸奥国風土記巻之一—白河郡—」とまほろん夏のてんじ「弘法山のよこあな—古代ガラスと象嵌の世界—」で陳列されましたので、実際にお目にかかれた方も多いいことと思います。

アクセサリーには耳飾りと首飾りがあります。首飾りは石製の勾玉・なつめ玉・**切子玉**、土製の勾玉・管玉・小玉、ガラス製の小玉を組み合わせていたよ



<弘法山古墳出土のアクセサリー>

うです。

勾玉の石材にはメノウが多く見られますが、無色透明の水晶や青緑色の硬質ヒスイもあります。また、勾玉と勾玉の間に多く見られるガラス小玉は青色が鮮やかです。その他、琥珀製のなつめ玉や水晶切子玉もあります。なお、少々色が鈍い土製の勾玉・管玉・小玉は表面に漆が塗られており、石製勾玉・管玉、ガラス小玉の代用品と考えられています。

「まほろん耳寄り情報」

夏休み特別体験メニュー

火おこし：7/24～8/6

弓矢・やり投げ：7/24～8/20

カラムシから繊維を取ろう：

7/29・30、8/5・6、12・13日(ともに土日)

バックヤードツアー：7/24～8/11(平日のみ)

夏休み自由研究のお手伝い：7/24～8/13(要予約)

ご利用案内

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日、夏休み中は休館日なし(月曜日が祝日・休日の場合は、その翌日・国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館))

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。